

256名の子どもたちに聞きました ホツとする地域ですか

調査報告書

1. 調査実施目的
2. 調査依頼及び回収状況
3. 単純及びクロス集計結果



静岡福祉文化を考える会

2019年度 静岡福祉文化を考える会 調査研究事業

「子どもを育む福祉コミュニティの再構築と地域ぐるみのささえあいの仕組みづくり」

「256名の子どもたちに聞きました。ホッとする地域ですか」調査実施要項

1. 調査の目的

本会は、2018年度から2年間「子どもを育む福祉コミュニティの再構築と地域ぐるみのささえあいの仕組みづくり」を活動テーマに取り組んできた。活動の中心は、これまで、大人社会から、いかに地域ぐるみで子どもを育むことができるかを議論してきた。本活動を「子ども」主体の意識と実態を把握するために、「子ども」対象に、「基本属性」「生活状況」「家族・家庭」「地域社会」「自由意見」の各項目を明らかにし、子どもを地域で育む地域環境改善はいかにあるべきか地域総合的な課題解決にむけた提言の一助として取り組むことを目的とする。

2. 実施主体 静岡福祉文化を考える会

3. 協力 共創社会実現研究会

4. 調査対象/配布依頼方法

調査対象 静岡県内の小学校 高学年（3年生～6年生）約100名の回収を目標に実施。
会員 地域実践者 関係団体 企業

5. 調査依頼/配布方法

- (1) 会員（現在20名）には、各2枚（40枚）
 - (2) 地域実践者に、本会より直接郵送等で依頼（60枚）
 - (3) 県内市町社会福祉協議会、福祉施設、NPO、企業等に直接郵送等で依頼（150枚）
 - (4) 県内自治会組織関係者等（10枚）
- 以上の領域の協力により実施

計260枚

6. 調査項目

- | | |
|--------------|-------------|
| (1) 基本属性 | (4) 地域社会のこと |
| (2) 生活状況 | (5) 自由意見 |
| (3) 家庭・家族のこと | |

7. 調査展開

- (1) 調査項目・調査票検討 本会委員会及び「共創社会実現研究会」中心に検討…7月～8月
- (2) 調査票完成……………08月04日
- (3) 調査依頼（実施期間） ……08月10日～09月26日
- (4) 回収・入力期間……………09月30日～10月20日
- (5) 分析・考察……………10月19日～11月20日
- (6) 公表・報告……………2020年1月末以降予定
 - ① 公開型研修会、関係機関・団体等の各種研修会で実施。
 - ② 本会機関紙『Our Life』で概要紹介。

8. 問い合わせ先・送付先

〒425-0041 焼津市石津751-1 静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚
Tel. & Fax: 054-624-1924 携帯：090-4861-4547
E-mail: monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp

調査結果概要

本会は、2018年度から2年間「子どもを育む福祉コミュニティの再構築と地域ぐるみのささえあいの仕組みづくり」を活動テーマに取り組んできた。

本会結成以来、23年間、「現場実践検証」「拓かれた地域総合型学習」「地域課題把握のための調査研究活動」の3つの柱立による福祉文化実践活動に取り組んできた。そのうちの一つ、「調査研究活動」においては、これまで、ほとんど、大人を中心に、意識と実態の調査に取り組んできた経緯がある。

活動全般にもいえることであるが、これまで、大人社会から、いかに地域ぐるみで子どもを育むことができるかを議論し課題提起をしてきた。今回は、「子ども」をキーワードにした、事業展開であることから、地域社会で暮らし合う子ども自身からの声を拾い上げ、事業検証をしようと、初めての試みとして、「子ども」主体の意識と実態調査により、子どもを取り巻く状況を把握し、大人社会への問題提起を考察することをねらいとして取り組んだ。

地域社会における、「子ども」を対象に、「基本属性」「生活状況」「家族・家庭」「地域社会」「自由意見」の5つの項目をもとに、23の設問項目を作成した。

そして、回答結果を、子どもを地域で育む地域環境改善はいかにあるべきか地域総合的な課題解決にむけた提言の一助とすることとした。

そのため、事業の準備段階において、十分な検討の期間を費やした。

「調査票」の作成検討及び予備調査作業においては、対象児童及び保護者の協力をいただき、調査票の内容、問いかけ等について、県内各地から意見を求めた。

調査票の設問には、漢字すべてに「かな」をふること、専門的な福祉領域の用語表現は、回答する児童が混乱することがないように配慮をすること、調査協力員(大人社会)が子どもたちと向き合う官キュ尾の中で調査活動にあたることに心掛ける等、調査の実施にあたっての確認事項をより明確にしていくことに心掛けた。

調査実施時期については、調査の目的に沿って、あくまでも、「地域社会において、子どもをいかに育むか」を目的に取り組むため、子どもの集団的環境や、学校教育に頼ることなく、8月の夏休み期間中に、関係機関・団体、会員、実践者等にその趣旨を理解していただき、子どもたちに調査の趣旨を個別に説明し、個別的調査環境に努めた。

本会における調査研究活動は、結成当初から、今日まで、23年間、手づくりによる、市民主体の取り組みをし、今日につなげている。

今回の調査も、県内東部・中部・西部の各地域に均等化した取り組みに心掛け、各地域の協力のもと実施した。その結果、これまでにない、ほぼバランスの取れた回答結果となった。

依頼先件数では、会員(35%の回収)、社会福祉協議会(108%)、地域実践者(128%)施設(100%)、企業(100%)、自治会関連(100%)と43か所依頼に対して、33か所(回収77%)の協力をいただいた。回答回収枚数は、調査の趣旨に賛同していただき、特に地域実践者は、積極的に、調査票をコピーして、領域内の対象の子どもたちに協力を呼び掛け回答していただいている。

その結果、260枚のうち256枚で98.5%と、この24年間の調査研究活動では、回収率は一番高い状況となった。

当初、「100名」の回収を目標に、調査タイトルを「100名の子どもたちに聞きました ホットとする地域ですか」として取り組んだが、回収予想をはるかに上回る256名(回収率98.5%)の回答をいただいたことから、調査タイトルを改め、「256名に聞きました ホットとする地域ですか」の表題としてまとめることとした。

本調査考察にあたっては、「全体傾向」「男女別傾向」に加えて、「学年別発達段階」による意識と実態の傾向をまとめることとして、高学年をさらに「4年生」「5年生」「6年生」の各学年ごとの考察を加えることとした。今日の家族構成の大きな変化が、子どもを取り巻く地域環境にどのような変化をもたらしているかの一面も捉える努力をした。

考察は、単に子どもたちの意見内容を列挙することなく、子どもたちが回答していただいた意見を大人社会は、その実現や改善にどのように取り組むべきか、今年度の本題につなげる努力をした。

1. 基本属性

(1) 性別 やや、女性の回答が多いが、ほぼ均等な回答結果。考察では、全体及び性別を中心とした。

	度数	割合
①男性	118	46%
②女性	138	54%
合計	256	100%

(2) 学年別 4年生37%、5年生35%、6年生28% は、学年が上がるにしたがって回答協力が下がっている状況が伺える。発達段階を考察することを基本とした。

	男性		女性	
	度数	割合	度数	割合
①4年生	39	33%	55	40%
②5年生	41	35%	48	35%
③6年生	38	32%	33	24%
無回答	0	0%	2	1%
合計	118	100%	138	100%

(3) 居住地 これまで、23年間の調査では、本会が中部地域を中心に活動している関係で、中部地区、東部地区、西部地区の順の回答であったが、今回は、中部地区36%、西部地区33%、東部地区31%、の順で、これまでにない地域別均等化されている。

	男性		女性	
	度数	割合	度数	割合
①東部	41	35%	37	27%
②中部	40	34%	51	37%
③西部	37	31%	48	35%
無回答	0	0%	2	1%
合計	118	100%	138	100%

(4) 地域環境 住宅が多い66%、農家が多い13%、お店が多い8%、海に近い8%、山の奥の方6%の順
地域性は、いかに子どもを育む地域づくりに影響するかを考察出来る

	男性		女性	
	度数	割合	度数	割合
①お店が多い	10	8%	9	7%
②住宅が多い	79	67%	90	65%
③農家が多い	13	11%	19	14%
④山の奥の方	6	5%	9	7%
⑤海に近い	10	8%	10	7%
⑥無回答	0	0%	1	1%
合計	118	100%	138%	100%

- (5) 家族構成 家族構成については、親と子どもが64%、祖父母と一緒に暮らす36%の回答状況は、今日的な社会状況を現わしている。祖父母との同居がいかにかに子どもを育てる地域づくりに関係するかの考察に心掛けた。

	男性		女性	
	度数	割合	度数	割合
①祖父母と一緒に暮らす	46	39%	44	32%
②親と子どもだけで暮らす	72	61%	92	67%
③無回答	0	0%	2	1%
合計	118	100%	138	100%

- (6) 兄弟数 兄弟二人47%、三人33%、四人以上13%、兄弟一人10%の順

	男性		女性	
	度数	割合	度数	割合
①一人	10	8%	16	12%
②二人	53	45%	66	48%
③三人	40	34%	40	29%
④四人以上	15	13%	16	12%
合計	118	100%	138	100%

2. 生活状況

設問01. あなたは、お友だちとよく遊びますか。

	男性		女性		4年生		5年生		6年生	
	度数	割合	度数	割合	男	女	男	女	男	女
①よく遊ぶ	66	56%	67	49%	23	28	25	26	18	12
②ときどき遊ぶ	40	34%	53	38%	12	20	13	16	15	16
③あまり遊ばない	7	6%	16	12%	1	7	2	4	4	5
④全く遊ばない	5	4%	1	1%	3	0	1	1	1	0
⑤無回答	0	0%	1	0%	0	0	0	1	0	0
合計	118	100%	138	100%	39	55	41	48	38	33

全体的には、「よく遊ぶ」が52.5%、「ときどき遊ぶ」36%で、全体で友達と遊ぶ88.5%。「遊ばない」の回答が11.5%。男女別では、男性が90%、女性は87%で、やや男性の方が積極的である。学年別に、友だちと遊ぶ傾向をみると、5年生89.9%、4年生、88.3%、6年生85.9%の順。

設問02. あなたはご家族とよく話しをしますか。

全体的には、「よく話をする」の回答は、77%、「たまに話をする」20.5%を含めると、97%が家族とのコミュニケーションを保持している。しかし、男性に、ほとんど話をしない回答が5%ある。男性の家庭におけるコミュニケーションのあり方に工夫の必要性を感じる。学年別の家族とのコミュニケーションがある割合は、5年生100%、4年生96.8%、6年生95.8%。5年生の積極性が伺える。家族構成からみると、祖父母同居、親子の家族構成も、ほぼ97%よく家族とよく話が出る環境にある。兄弟構成も、ほぼ同じように、語れる環境が維持されている回答。

	男性		女性		4年生		5年生		6年生	
	度数	割合	度数	割合	男	女	男	女	男	女
①よく話をする	85	72%	113	82%	24	45	33	41	28	26
②たまに話をする	27	23%	25	18%	12	10	8	7	7	7
③ほとんどしない	6	5%	0	0%	3	0	0	0	3	0
合計	118	100%	138	100%	39	55	41	48	38	33

設問03. 「よく話をする」「たまに話をする」回答者の話す環境

	男性		女性	
	度数	割合	度数	割合
①土日や祝日等学校が休みの時	26	22%	30	22%
②食事をとるとき	64	54%	73	53%
③一緒にお風呂に入っているとき	5	4%	7	5%
④みんなでテレビを見ているとき	15	13%	16	12%
⑤家族で外出や旅行をしているとき	3	3%	12	9%
⑥無回答	5	4%	0	0%
合計	118	100%	138	100%

全体的には、女性は、家庭・家族と、全て語れる環境にあることがわかった。男性は、5%が話せない環境にある。語れる環境は「食事をしているとき」54%、「土日や祝日等学校が休みの時」22%、「みんなでテレビを見ているとき」13%で、男女の差はあまり見られない。女性は、家族で外出をしているときのコミュニケーションが積極的である。

設問04. 「話しをしない」回答者の環境

	男性		女性	
	度数	割合	度数	割合
①学校の勉強が忙しくて家族と話す時間がない	0	0%	0	0%
②話したくない	2	40%	0	0%
③何を話していいかわからない	3	60%	0	0%
④習い事が忙しく話す時間がない	0	0%	0	0%
⑤その他	0	0%	0	0%
合計	5	100%	0	0%

女性は、何らかの形でコミュニケーションを保持しているが、男性は、5%話せる環境にない。主な回答結果は、「何を話したら良いかわからない」60%、「話したくない」40%、となっている。

設問05. あなたは、お手伝いをしますか。

	男性		女性	
	度数	割合	度数	割合
①よくする	33	28%	37	27%
②ときどきする	52	44%	74	54%
③あまりしない	22	19%	22	16%
④しない	11	9%	4	3%
合計	118	100%	137	100%

全体では、76.5%が「手伝いをする」回答。男女別では、女性81%、男性72%と女性の方が家事手伝いは積極的である。学年別では、どの学年も、女性の方が手伝いは積極的である。

6年生女性85%、4年生女性81%、5年生女性79%、5年生男性78%、4年生男性74%、6年生男性61%の順。成長期における家庭への気配り的な傾向が伺える。

具体的な回答から、考察すると、家事手伝いの領域を大人は、子どもたちの発達段階により具体的に細分化することにより、家庭生活の中で、手伝いの意識が高まり、地域の一員として、地域参加への自信が養われてくることが期待できる。学年別・男女別に具体的な手伝いの回答内容を下記にまとめた。

No.	4年生(男)	4年生(女)	5年生(男)	5年生(女)	6年生(男)	6年生(女)
1	掃除 (6)	食事準備(15)	食事準備(8)	食事準備(14)	食事準備(10)	掃除 (7)
2	風呂掃除(5)	掃除 (9)	掃除 (5)	風呂掃除(9)	掃除 (8)	洗濯干し片づけ(6)
3	食事準備(5)	洗濯干し片づけ(7)	風呂掃除(4)	食器洗い(6)	風呂掃除(6)	食器洗い(5)
4	洗濯干し片づけ(3)	小動物世話(4)	洗濯干し片づけ(4)	掃除 (5)	食器洗い(5)	食事準備 (3)
5	食器洗い(2)	ゴミ出し(4)	ゴミ出し(3)	洗濯 (2)	洗濯干し片づけ(2)	ゴミ出し(3)
6	小動物世話(2)	風呂掃除(3)	食器洗い(2)	洗濯干し片づけ(4)	ゴミ出し(2)	買い物(2)
7	肩たたき(2)	弟・妹世話(2)	弟・妹世話	ゴミ出し	小動物世話	風呂掃除
8	買い物	買い物	花壇の手入れ	弟・妹世話	布団出入れ	洗濯
9		布団出入れ	店番	花壇手入れ	洗車	ペット世話
10		アイロンかけ	なんでも	ペット世話		なんでも
11				買い物		
				雨戸開閉		

設問06. あなたは、自分のことで困ったときは主に、だれに話したり相談したりしますか。

	男性		女性		4年生		5年生		6年生		家族	
	度数	割合	度数	割合	男	女	男	女	男	女	祖父・祖母	親子
① 友だち	27	23%	24	18%	7	10	9	7	11	7	22	29
② 親	51	43%	86	62%	17	33	19	33	15	20	43	93
③ 学校の先生	6	5%	2	2%	5	2	1	0	0	0	1	7
④ 祖父母	0	0%	1	1%	0	0	0	0	0	1	1	0
⑤ 親せきの人	0	0%	0	0%	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥ 兄弟姉妹	2	2%	4	3%	1	2	1	1	0	1	2	4
⑦ その他	0	0%	1	1%	0	1	0	0	0	0	0	1
⑧ 誰にも相談しない	15	13%	5	4%	4	2	4	2	7	1	8	12
⑨ こまっていない	16	14%	15	10%	5	5	7	5	4	3	12	18
無回答	1	1%	0	0%	0	0	0	0	1	0	1	0
合計	118	100%	138	100%	39	55	41	48	38	33	90	164

全体では、回答の多い順にあげると、「親」53%、「友だち」21%、「学校の先生」4%、「兄弟姉妹」3%。これを男女別にみると、女性は、男性よりも「親」に相談する回答が19%多い。

ここで、注目したいのは、「こまっていない」回答が、全体で12%と占めている。そして、男性に多い回答である。「困っていない」回答は、祖父母と同居の子どもの回答が微増ではあるが回答結果が低い。「誰にも相談しない」回答は全体で約9%である。男女別では、実に男性が13%と高い回答結果を示している。大人社会が、家庭・家族に関連して、特に男性への関わりを配慮していく点と受止

められる。祖父母同居の子どもの環境において、特に祖父母関係は目立たない。「誰にも相談しない」は、学年が高いほど回答が多い。4年生では、学校の先生への相談傾向少し伺える回答である。

設問07. あなたは、他の人の力や助けをかりなくても生きていけると思えますか.

	男性		女性		4年生		5年生		6年生	
	度数	割合	度数	割合	男	女	男	女	男	女
① そう思う	16	14%	17	12%	6	8	3	6	7	3
② そう思わない	68	58%	85	62%	19	32	28	31	21	20
③ わからない	34	29%	36	26%	14	15	10	11	10	10
合計	118	100%	138	100%	39	55	41	48	38	33

	家族		兄弟			
	祖父・祖母	親子	1人	2人	3人	4人以上
① そう思う	12	21	5	13	10	5
② そう思わない	57	94	15	78	41	19
③ わからない	21	49	6	28	29	7
合計	90	164	26	119	80	31

全体の回答結果では、「他の人の力や助けをかりなくても生きていける」は、13%。「そう思わない」60%で半数以上の回答。「わからない」28%。男女別回答では、女性は「そう思わない」60%と男性よりも4%高い回答。学年別の回答では、5年生が「そう思わない」66%と高く、6年生57%、4年生54%。これを家族構成で見ると、「そう思う」の回答は祖父母同居で13%、親子13%とほぼ同数。兄弟姉妹別では、「そう思う」1人19%、4人16%、3人13%、2人10%。この設問からは、いずれにしても、子どもの意識は、多くの人々の助けをかりて生きることと感している結果である。しかし、「わからない」約3割は、地域社会の中で生きることを、大人社会が何らかの形で「支え合うこと」の意義づけの方向性をしていくことの役割があると感じる。

設問08. あなたは、すすんで他人のために何かをしてあげたいと思えますか.

	男性		女性		4年生		5年生		6年生	
	度数	割合	度数	割合	男	女	男	女	男	女
① そう思う	84	71%	110	80%	28	45	32	37	24	26
② そう思わない	11	9%	7	5%	5	4	2	1	4	2
③ どちらともいえない	23	19%	21	15%	6	6	7	10	10	5
合計	118	100%	138	100%	39	55	41	48	38	33

全体の回答結果では、「進んで他人のために何かをしてあげたい」という意識は76%と高い。

「どちらともいえない」17%。子どもを取り巻く社会において、こうした意識は、女性が80%と男性よりも9%高い。学年別では「そう思う」4年・5年生は78%と同数であるが、6年生70%。

	家族		兄弟			
	祖父・祖母	親子	1人	2人	3人	4人以上
① そう思う	67	125	21	91	57	25
② そう思わない	6	93	3	7	7	1
③ どちらともいえない	17	27	2	21	16	5
合計	90	164	26	119	80	31

家族構成では、「そう思う」祖父母同居74%、親子76%。

兄弟姉妹別では、「そう思う」1人81%、4人以上81%、2人76%、3人71%。

【子どもの生活状況考察】

この設問項目では、調査対象の「子ども」自身の生活状況について、意識と実態を考察し、子どもを育む地域社会における大人社会に向けた課題提起を探ってみた。

1. 「友だちとの遊び関係」では、約9割が「友達と遊ぶ」積極的な結果を得た。しかし、1割が消極的な回答である。開放的なこの領域では、男性の方が積極的。地域社会において、自由に交流しあい、世代を超えた楽しい地域環境の提供が求められる。
2. 家族・家庭における子どもと大人社会とのコミュニケーションは、全体的には、「よく話をする」回答は77%、「たまに話をする」20.5%と高い、家族とのコミュニケーションを保持している中で、女性は、家庭・家族全てで語れる環境にあるが、男性に、「何を話してよいかわからない」「話したくない」等ほとんど話をしない回答が5%。男性の家庭におけるコミュニケーションのあり方に工夫の必要性を感じる。また、学年が上がるにしたがって会話が消極的。子どもと向き合う家庭環境全てにおいて、大人社会が積極的に働きかけていく機会をもつ心掛けをして、地域社会につなげていくことが求められる。
3. 家庭生活における、子どもの手伝いの機会が、時代と共に少なくなってきたことと、子どもを取り巻く生活環境が多様化し大きく変化してきた。改めて「家事労働」を子どもの「社会参加」につなげていく再考の時期とも伺える。回答結果では、約8割が「手伝い」に取り組んでいるが、男性は、女性より1割消極的で、学年が進むに従い消極的である。「手伝いの内容」から、大人社会が、子どもの成長にしっかりと向き合いながら、地域社会につなげる課題がある。
4. 生活の中で、相談相手は「親」が一番高い。女性は、男性よりさらに「親」への関わりは高い。「こまっていない」回答12%、「誰にも相談しない」回答9%は、今後、地域社会において、関わり工夫が求められる。大人社会が、家庭・家族に関連して、特に男性への関わりを配慮していく点と受け止められる。
5. 「他人の助けをかりなくても良い(意識)」13%に対して、「そうは思わない」60%は、子どもなりに「意識」は高いと感じる。地域社会で暮らし合う仕組みを大人社会が子ども社会に方向づける環境を創ることが求められる。
6. 子どもなりに、「他人のために何かしてあげたい」という意識が76%あることを地域社会の大人社会がしっかりと受け止め、どのように子どもを地域で育てていくかが課題と感じる。

3. 家庭・家族のこと

設問01. あなたは、よく家族にほめられますか。

	男性		女性		4年生		5年生		6年生	
	度数	割合	度数	割合	男	女	男	女	男	女
①よくほめられる	30	25%	36	26%	7	16	14	14	9	6
②時々ほめられる	70	59%	93	67%	23	35	21	33	26	23
③あまりほめられたことはない	17	14%	8	6%	8	3	6	1	3	4
無回答	1	1%	1	1%	1	1	0	0	0	0
合計	118	100%	138	100%	39	55	41	48	38	33

「家族からほめられるか」全体の回答結果から、「よくほめられる」23%、「ときどきほめられる」63%、「あまりほめられたことはない」10%。親が、子どもの生活状況を積極的にほめながら、

自信を持たせる家庭環境を築く努力が必要と感じる。学年別では、5年生がほめられる傾向が多い。家族構成からみると、「祖父母同居」では、30%、「親子」では24%で、子どもを取り巻く生活環境が多少影響をもつ傾向にあるように伺える。

	家 族		兄 弟			
	祖父・祖母	親子	1人	2人	3人	4人以上
①よくほめられる	27	39	10	30	16	10
②時々ほめられる	51	110	14	77	54	18
③あまりほめられたことはない	12	13	2	11	9	3
無回答	0	2	0	1	1	0
合 計	90	164	26	119	80	31

「兄弟関係」から「よくほめられる」の結果を見ると、「一人」38%、「二人」25%、「三人」30%「四人以上」32%。親と子どもとの向き合う関係でほめる機会に差が伺える。

設問02. あなたは、毎日家族と楽しく過ごしていますか。

	男 性		女 性		家 族		兄 弟			
	度数	割合	度数	割合	祖父・祖母	親子	1人	2人	3人	4人以上
①楽しく過ごしている	58	49%	100	72%	59	99	16	77	44	21
②まあまあ楽しく過ごしている	52	44%	33	24%	23	60	8	40	29	8
③どちらかといえば楽しく過ごしていない	3	3%	2	1%	3	2	0	1	3	1
④楽しくない	1	1%	0	0%	0	1	0	1	0	0
⑤どちらともいえない	4	3%	3	2%	5	2	2	0	4	1
合 計	118	100%	138	100%	90	164	26	119	80	31

日々家族と楽しく過ごしている」全体的回答結果は、56%と半数以上であるが、女性の72%に対して、男性の49%と大きく23%の差がある。「家族との会話」「家族からほめられること」とも関連しているように伺える。家族構成では、「祖父母と同居65%」の満足度は「親子60%」の比率を上回って入り。兄弟関係の満足度は、高い順に「四人以上」「二人」「一人」「三人」となっている。

設問03. あなたは、家にいる時、家族でそろって食事をしますか。

	男 性		女 性		4年生		5年生		6年生	
	度数	割合	度数	割合	男	女	男	女	男	女
①いつも 一緒	74	63%	73	53%	23	27	28	28	23	17
②ときど き	38	32%	56	41%	13	25	11	17	14	13
③あまりそろって食べない	5	4%	8	6%	3	2	2	3	0	3
④いつも 別々	1	1%	1	1%	0	1	0	0	1	0
合 計	118	100%	138	100%	39	55	41	48	38	33

	家 族		兄 弟			
	祖父・祖母	親子	1人	2人	3人	4人以上
①いつも一緒に	58	87	14	73	42	18
②ときどき	27	67	9	40	35	10
③あまりそろって食べない	5	8	3	6	1	3
④いつも 別々	0	2	0	0	2	0

①よく話す	5	47	7	6	7	25	46	13	29	21	9
②あいさつする程度	11	104	13	8	11	53	95	11	75	41	21
③話をしない	2	14	9	1	1	7	19	0	12	14	1
④誰が住んでいるのかわからない	1	4	3	0	1	5	4	2	3	4	0
合計	19	169	32	15	20	90	164	26	119	80	31

「近所の人とよく話をするか」全体回答結果は、「よく話す」29%、「あいさつする程度」58%、「話をしない」11%、「誰が住んでいるのかわからない」4%。男性の方が、地域社会におけるコミュニケーション力は積極的なように伺える。学年が上がるに従い、近所の人との話は消極的となる。居住環境別にみると、「山の奥」「海に近い」「住宅が多い」「店が多い」「農家が多い」順である。家族構成では、やや、「祖父母同居」の子どもの方が、近所とのコミュニケーションは積極的と伺える。兄弟関係を見ると、意外と「一人っ子」の地域との接点は積極的である。

設問02. あなたは、地域（町内会、自治会、子ども会等）が行うイベントによく参加していますか

	男性		女性		4年生		5年生		6年生	
	度数	割合	度数	割合	男	女	男	女	男	女
① よく参加する	52	44%	76	55%	19	35	19	19	14	21
②ある程 程度参加する	47	40%	41	30%	13	15	16	18	18	7
③あまり参加してない	9	8%	14	10%	1	2	5	10	3	2
④まったく参加しない	10	8%	7	5%	6	3	1	1	3	3
合計	118	100%	138	100%	39	55	41	48	38	33

	住んでいるところ					家族	
	店が多い	住宅が多い	農家が多い	山の奥	海に近い	祖父・祖母	親子
①よく参加する	11	81	17	6	13	46	81
②ある程度参加している	6	57	14	5	5	29	58
③あまり参加していない	1	20	0	1	1	9	14
④まったく参加していない	1	11	1	3	1	6	11
合計	19	169	32	15	20	90	164

地域のイベントへの参加状況を全体回答結果から見ると、「参加」傾向は84%。「不参加」傾向は、16%。男女別の参加はほぼ同数。学年別では、参加傾向の高い順では「4年生」「6年生」「5年生」。居住環境別では、「店が多い」、家族構成では、「祖父母同居」が良く参加の傾向。

設問03. あなたの住んでいる近くには、子どもたちが集まる、遊べる場所がありますか。

	男性		女性	
	度数	割合	度数	割合
①ある	80	68%	92	67%
②少し離れて地区にある	22	19%	19	14%
③ない	6	5%	13	9%
④わからない	10	8%	12	9%
無回答	0	0%	2	1%

合 計	118	100%	138	100%
-----	-----	------	-----	------

子どもから見た地域の遊べる環境回答結果からは、「ある」68%、「少し離れた地区にある」17%で、地域の空間的環境は85%整っている地域環境のように伺える。

消極的と思われる子どもからは「わからない」9%と、地域の物的環境の現状が把握されていない。大人社会は、子どもの地域環境を単に整備するだけにとどまらず、有効に地域資源が活用できるように子どもたちに働きかけをしていくことが課題と感じる。

設問04. あなたが住んでいるところは、とても良いところだと思いますか。

	男 性		女 性	
	度数	割合	度数	割合
①とても良い	52	44%	68	49%
②良い	58	49%	64	46%
③あまり良くない	5	4%	4	3%
④よくない	3	3%	2	1%
合 計	118	100%	138	100%

全体的回答結果では、「今住んでいる地域は良い」が95%で、ほとんどの子どもは、今の地域社会を前向きに受け止めている。「良くない」の回答は5%。

設問05. 「とても良い」「良い」の回答者の「良い点」

	男性		女性	
	度数	割合	度数	割合
①自然が多い	28	25%	37	28%
②近所の方がやさしい	39	35%	47	36%
③犯罪が少ない	16	15%	13	10%
④交通事故が少ない	3	3%	5	4%
⑤静かな場所	13	12%	9	7%
⑥地域主催の行事が多い	3	3%	8	6%
⑦交通の便が良い	1	1%	4	3%
⑧その他	4	4%	7	5%
無 回 答	3	3%	2	2%
合 計	110	100%	132	100%

「今住んでいる地域の良さ」を回答の高い順にあげると次の通りである。

- ①近所の方がやさしい ②自然が多い ③犯罪が少ない ④静かな場所 ⑤地域主催の行事が多い
⑥交通事故が少ない ⑦交通の便が良い

設問06. 「あまり良くない」「良くない」の回答者の「良くない点」

「今住んでいる地域の良くないところ」の5%の全体回答結果での回答内容は、次の通りである。

- ①騒音がうるさい ②近所との交流が少ない ③地域の子ども仲間が少ない ④車が多い
⑤道路が狭い ⑥環境が悪い ⑦通学路にサルが出るので怖い ⑧ひそひそ話がある

	男性		女性	
	度数	割合	度数	割合
①自然が 少ない	0	0%	0	0%
②近所の人から怒られる	0	0%	0	0%
③近所の人と交流がない	0	0%	1	17%
④犯罪が 多い	0	0%	0	0%
⑤交通事 故が多い	0	0%	0	0%
⑥騒音が うるさい	3	38%	0	0%
⑦交通の 便が悪い	0	0%	0	0%
⑧地域主催の行事が少ない	0	0%	0	0%
⑨ その他	3	38%	1	17%
無回答	2	25%	4	67%
合 計	8	100%	6	100%

★「⑨その他」の回答内容は、「地域の子ども仲間が少ない」「車が多い」「道路が狭い、環境が悪い」「通学路にサルが出るので怖い」「ひそひそ話がある」

設問07. あなたは、地域（自治会・町内会・子ども会など）の行事参加の呼び掛けがあれば参加しますか。

	男性		女性		4年生		5年生		6年生	
	度数	割合	度数	割合	男	女	男	女	男	女
①ぜひ 参加したい	37	31%	48	35%	17	22	12	15	8	11
②出来る範囲で、参加したい	66	56%	74	54%	18	29	24	25	24	18
③参加し たくない	7	6%	8	6%	2	3	2	2	3	3
④わから ない	8	7%	7	5%	2	0	3	6	3	1
無回答	0	0%	1	1%	0	1	0	0	0	0
合 計	118	100%	138	100%	39	55	41	48	38	33

全体の回答結果では、「出来る範囲で、参加したい」と、やや消極的であるが参加意向の回答が55%。「ぜひ参加したい」と積極的な回答は33%と約3割。「参加したくない」「わからない」は、全体の12%の回答結果である。

男女別では、やや女性の方が積極的な回答結果である。学年が高くなるほど消極的な傾向にある。

設問08. あなたは、地域の人にほめられたことがありますか。

	男性		女性	
	度数	割合	度数	割合
①ある	45	38%	84	61%
②ない	70	59%	52	38%
無回答	3	3%	2	1%
合 計	118	100%	138	100%

全体の回答結果からは、「地域の人からほめられたことがある」50%。

この項目では、男女別の回答に大きな開きが伺える。「地域の人からほめられたことがある」男性の回答38%に対して女性61%の結果である。家庭生活及び地域社会との関わり方において、男性

への大人社会の課題が浮き彫りになっているように感じる。

設問09. 地域の人にほめられた回答者の内容とどのようなことでほめられましたか。

ここでは、大人社会が、発達段階における子どもとのコミュニケーションの配慮等考察するうえで、学年別・男女別に回答内容をまとめた。

全体的に、女性の方が、日常的に地域社会において、大人社会とのコミュニケーションをもつ機会が多いことから、大人社会から励まされたり、活動の評価を多く得ている傾向が伺える。

◇4年生 男性

- 1 あいさつが良くできる(6)
- 2 清掃活動に参加して
- 3 元気だと褒めてくれた
- 4 地域の運動会に参加したとき
- 5 地域の行事で頑張って優勝した時
- 6 毎日ラジオ体操に参加して
- 7 作品展で作品を褒めてくれた
- 8 学校の宿題を忘れないでやっている
- 9 趣味をみんなに披露して
- 10 落とし物を届けて
- 11 犬の散歩のとき
- 12 手伝いをして

◇4年生 女性

- 1 敬語を使ってあいさつができる(6)
- 2 町内会の人のお手伝いをしたとき
- 3 ごみ拾い・ゴミ出し
- 4 早起きして近所の人に褒められた
- 5 足が長くてかっこいい
- 6 元気に学校に行っていること
- 7 習い事から帰ってきたとき頑張っていると(2)、
- 8 迷子の子を助ける。
- 9 ラジオ体操に毎日参加しているから(2)
- 10 手伝い
- 11 回覧板などを運んだこと
- 12 犬の散歩偉いねと言われた
- 13 料理が上手だと
- 14 留守番をされていて
- 15 小さい子のお世話をしたとき

◇5年生 男性

- 1 あいさつが出来る(12)
- 2 学校の行事に積極的に参加して
- 3 行事に参加して
- 4 ゴミ拾い(3)
- 5 お手伝いで褒められた
- 6 字が上手だと褒められた
- 7 掃除を頑張っていたとほめられた
- 8 はじめて自転車に乗れたとき
- 9 勉強を頑張ったと褒められた
- 10 毎日、ラジオ体操に参加して
- 11 横断歩道の渡り方が良い

◇5年生 女性

- 1 あいさつが出来る(6)
- 2 今日も元気だね
- 3 地域の行事に参加して
- 4 ゴミ拾い(4)
- 5 隣の家に戻覧板を持って行ったとき
- 6 地域の掃除を手伝ったとき
- 7 ゴミ出しの手伝いをして
- 8 習い事から帰ってきたとき頑張っていると
- 9 勉強頑張っている、大きく成長したね
- 10 妹の世話をして
- 11 朝の登校が早い

◇6年生 男性

- 1 あいさつ(6)
- 2 下級生の面倒を見る
- 3 地域のサロン活動に参加して
- 4 ゴミ拾いをして
- 5 お祭りに参加して
- 6 ゴミ出しをして

◇6年生 女性

- 1 あいさつ(6)
- 2 元気がいいねと言われた(3)
- 3 地域の行事に参加して
- 4 エコキャップ活動に参加して
- 5 お祭りに参加して
- 6 選手に選ばれて競技大会に参加して(2)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 7 お使いに行つて | 7 手伝いをして(3) |
| 8 自分から進んで活動した時 | 8 近所に家族旅行にお土産を届けた時 |
| 9 地域の野球チームで頑張っていること | 9 親の忙しい時に手伝いをしているとき |
| | 10 近所に回覧板を届けた時に |

【地域社会に関する考察】

基本属性、子どもの生活状況、そして子どもの家庭・家族に関する考察から、4つ目の設問項目では、家庭・家族機能の現状を踏まえて、「地域を家庭化する時代」の課題提起が浮き彫りになった今日、大人社会は、子どもを育む地域づくりにいかにして取り組むべきか、子どもの地域社会に対する意識と実態から探った。

1. 近所の人とよく話をするは約2割程度。 半数が「あいさつ程度」の回答である。
今日の社会にあって、大人社会(親)の近所づきあいが、子どもの生活状況に大きく影響していることが伺える。「話をしない」「誰が住んでいるのかわからない」を合わせて15%。
成長と共に、身近なご近所との疎遠が伺える。「祖父母同居」の子どもの近所とのコミュニケーションは、祖父母が地域をつないでいることから積極的と伺える。地域をつなぐ大人の役割をいかに発揮すべきかである。
2. 地域行事の参加の現状は、全体・男女別ともに、「参加」回答84%、「不参加」回答は16%で、積極的な回答結果である。学年別では、「4年生」の参加状況が高い。 居住環境別では、「店が多い」、家族構成では、「祖父母同居」の参加の状況が積極的傾向にある。
今後においても、大人社会が、子どもを地域で育む心掛けを積極的な呼び掛けが求められる。
3. 子どもから見た地域の遊べる環境回答結果からは、「ある」68%、「少し離れた地区にある」17%で、地域環境は85%整っている回答である。しかし、消極的と思われる子どもからは「わからない」9%と、地域の物的環境の現状が把握されていない。大人社会は、子どもの地域環境を単に整備するだけにとどまらず、地域ぐるみの子どもたちの居場所として、有効に地域資源が活用できるように子どもたちに働きかけることが必要と感じる。
4. 地域行事等への参加の意向では、全体の回答結果から、「出来る範囲で参加したい」55%と、やや消極的であるが参加の意向を表明している。
「ぜひ参加したい」と積極的な回答は33%。これらを合わせると「参加意向」は約9割を占める。 しかしながら、回答結果に「参加したくない」「わからない」は、全体の12%を占めている。中でも、男女別では、やや女性の方が地域参加の意向は積極的な回答結果である。
地域行事の参加と同様、成長と共に、学年が上がると消極的な傾向にある。
今日、実社会においても、課題としてあげられているのは、中学生、高校生になるに従い、地域行事への参加が著しく減少している現状の課題が提起されている。 こうした、小学生時期に、さらに地域への関わりを大人社会がつなげる機会を考えていくことも必要と感じる。
5. 地域の大人社会から声が掛けられているか(ほめられているか)に関して、「地域の人からほめられてことがある」は全体では50%である。 女性61%に対して男性38%と、地域からの関わりは女性の方が積極的である。家庭生活及び地域社会との関わり方に関連して、男性に対する大人社会の積極的な関わりの課題が提起されている。
地域からほめられた内容を学年別・男女別に回答結果をまとめると、どの領域でも「あいさつが良くてできる」「ゴミだし」「ラジオ体操参加」「回覧板を届けた時」と、ごく日々の日常生活の中で、ご近所における大人社会からの声掛けの強い印象が受け止められている。
大人社会が、発達段階における子どもと、ごく身近な生活環境の中で、コミュニケーションの配

慮することの重要性を感じる。

5. 自由意見

ここでは、本調査の主たるねらいである“ホッとする地域ですか”で、子どもたちが身近な地域社会で生活している現状にあって、大人社会は、これまで受け継がれてきた地域の伝統行事や健康・生きがい・文化活動をとかく、取り止めたり、廃止したりしている今日、子どもたちは、どのような地域づくりを望んでいるか「子どもたちが望んでいる楽しい地域行事」と「ホッとする地域環境」について自由回答していただいた。特に、区分をすることなく、高学年対象を男女別に、4年生、5年生、6年生別にまとめた。()内の数字は同じ回答数を現わす。

設問1. あなたは、地域でどんな行事があったら楽しいと思いますか。

◇4年生 男性

- 1 お祭り(4)
- 2 納涼会
- 3 みんなで考えてやる祭り
- 4 地域のみんが参加出来る行事
- 5 クリスマス会
- 6 ゲーム大会
- 7 自由に交流できる会(レクリーション)
- 8 野外行事
- 9 フリーマーケット
- 10 各種競技会(競走・球技)
- 11 自転車レース
- 12 仮装パレード(ミッキーマウス等)

◇4年生 女性

- 1 お祭り(夏・秋)(5)
- 2 花火大会(4)
- 3 地域の伝統行事の復活
- 4 季節の行事
(そうめん流し・花見・凧揚げ・餅つき・豆まき等)
- 5 輪投げ大会
- 6 子ども会行事(子ども会があったらいい)
- 7 仮装大会
- 8 各種競技会(競走・球技・水泳)
- 9 川遊び
- 10 地域のみんが参加出来る行事
- 11 自由に交流できる会(レクリーション)
(障害をもつ人も持たない人も一緒に)
- 12 映画会
- 13 英語コンテスト

◇5年生 男性

- 1 お祭り(7)
- 2 お盆休みのお祭り 納涼会
- 3 みんなで考えて景品の出る祭り
- 4 いくつかの町内会合同行事
- 5 地域のみんが参加出来る行事
- 6 ゲーム大会
- 7 自由に交流できる会(レクリーション)
- 8 野外行事(元気に外で遊ぶ)
- 9 スポーツ教室 ウォークラリー

◇5年生 女性

- 1 お祭り(夏・秋)(7)
- 2 花火大会
- 3 ボーリング大会
- 4 季節の行事(ハロウィンパーティー、クリスマス会)
- 5 地域の体験行事(ものづくり 地域の自然観察)
- 6 子ども会行事
- 7 地域の伝統行事
- 8 ゲーム大会(ビンゴ大会、じゃんけん大会)
- 9 高齢者から子どもまで地域のみんが参加出来る行事
(昔の遊びでふれあいをする)
- 10 小動物とのふれあい行事
- 11 自分の趣味を紹介する会(文化祭)
- 12 地域の人と日帰り旅行

13 環境美化コンクール

◇6年生 男性

- 1 お祭り(9)
- 2 ウォーキング
- 3 花火大会
- 4 季節の行事(餅つき大会)
- 5 各種スポーツ大会(3)
- 6 公園でふれあい交流大会
- 7 地域のみんが参加出来る思い出行事
- 8 お茶を楽しむ行事
- 9 スポーツ教室 ウォークラリー

◇6年生 女性

- 1 お祭り(夏・秋)(4)
- 2 季節の行事(地域の自然を楽しむ クリスマス会)(2)
- 3 花火大会
- 4 ゲーム大会(ビンゴ大会、じゃんけん大会)
- 5 子ども達が一日楽しめる交流会
- 6 近所で集まっておしゃべり会
- 7 魚釣り大会
- 8 小動物とのふれあい行事
- 9 高齢者から子どもまで地域のみんが参加出来る行事(昔の遊びでふれあいをする 健康スポーツ)
- 10 自然を楽しむ海辺の行事
- 11 地域行事(運動会の継続)
- 12 地域の人と日帰り旅行

【子どもたちが望む地域行事に関する考察】

1. 回答全体から、「お祭り」を望む子どもたちの非常に多いことがわかった。
地域のお祭りを振り返ることが、子どもたちが、それぞれの成長の振り返りとして、また、生まれ育った[地域]を語る大切な行事と位置づけられているように受け止められる。
こうした、子どもたちの願いを、大人社会がどのように受け止めていけるかである。
子どもたちの単なる思いだけではなく、世代間交流や、地域の良さをいつまでの抱き、子どもたちが大人社会に加わった時に、さらにこうした絆を継承していくことにもなる。地域社会の中で、今日では、地域行事が消えつつある状況の中で、改めて「地域行事」の持つ意味を大人社会がしっかりと受け止めていきたい時代を迎えている。
2. 自由な地域環境を求め、子どもたちの意見も反映できることを願う意見が多く伺える。
「みんなで考えてやる祭り」「自由に交流できる会(レクリエーション)(障害をもつ人も持たない人も一緒に)」「子ども会行事(子ども会があったらいい)」「高齢者から子どもまで、地域のみんが参加出来る行事(昔の遊びでふれあいをする)」「子ども達が一日楽しめる交流会」「近所で集まっておしゃべり会」等。
3. 季節感や、地域の自然・地域性や、地域の伝統行事を通じて、地域住民との交流を期待する行事を望む意見が多くある。
4. 子どもたちの回答意見から、いくつかの「アイディア」「問題提起」が出ている。
 - (1) みんなで考えてやる,自由に交流できる行事
 - (2) 近所で集まっておしゃべり会
 - (3) 地域の伝統行事の復活
 - (4) 子ども会行事(子ども会があったらいい)
 - (5) いくつかの町内会合同行事
 - (6) 地域の体験行事(ものづくり 地域の自然観察 お茶を楽しむ行事)
 - (7) 小動物とのふれあい行事
 - (8) 自分の趣味を紹介する会
 - (9) 公園でふれあい交流大会
5. 回答いただいた、子どもたちからの意見から、いかに大人社会が実現に向けて知恵を出し合うとともに、本題である「子どもたちを育む地域づくり」にいかに、地縁組織と志縁組織の協働により

実現できるかの課題提起がされている。

設問2. あなたにとって「ホッとする楽しい地域」とは、どんな地域ですか。

◇4年生 男性

- 1 挨拶(2)
- 2 楽しい地域(2)
- 3 みんながけんかをしない地域
- 4 優しい地域・優しい人がいっぱい(2)
- 5 たくさん遊べる・公園のある地域(3)
- 6 地域みんなが友だちで犯罪がない(2)
- 7 安心・安全な地域(3)
- 8 静かな地域
- 9 自然が多く生き物がたくさんいる地域(2)

◇4年生 女性

- 1 挨拶を交わし合う優しい人がいる地域(6)
- 2 お互いに声を掛けあう地域(2)
- 3 今住んでいる地域(2)
- 4 思いやりがある地域
- 5 助け合う地域(4)
- 6 自然がいっぱいで、空気地域
- 7 みんなが楽しい地域(3)
- 8 仲のいい地域
- 9 笑いながら話し合える地域(2)
- 10 明るくて温かい地域(2)
- 11 いじめの無い地域
- 12 安心安全な地域(6)
- 13 楽しい行事がいつもある地域
- 14 ゴミ出しがしっかりと出来る地域
- 15 子ども会の楽しい行事がある地域

◇5年生 男性

- 1 挨拶が出来、交通事故の無い地域(2)
- 2 近所付き合いの出来る地域(2)
- 3 笑顔で楽しい地域
- 4 人々のふれあいが出来る地域
- 5 安心安全な地域
- 6 関わりをもてる地域
- 7 友だちがいる地域
- 8 安心して遊べる地域
- 9 地域のお祭りで盛り上がる地域
- 10 お店がたくさんあり楽しい地域
- 11 みんなが仲良しの今の地域
- 12 地域の行事が多い地域
- 13 静かな地域

◇5年生 女性

- 1 挨拶の出来る地域
- 2 話し合いができてみんな笑顔な地域
- 3 優しい人が多い地域(6)
- 4 毎日、声を掛けあって、挨拶の出来る地域
- 5 みんなが親切で仲良しの地域
- 6 今住んでいる地域
- 7 犯罪がない地域(4)
- 8 気持ちの良い挨拶が出来る地域
- 9 みんなが協力できる地域(3)
- 10 近所づきあいの出来る地域(2)
- 11 安心安全で子どもがいっぱいの地域
- 12 近所と家族が付き合える地域
- 13 お互いに知り合える地域
- 14 不審者がいない、コミュニケーションが取れる地域
- 15 ゴミの無い、自然がいっぱいのきれいな地域(2)

◇6年生 男性

- 1 優しい挨拶が交わし合える地域
- 2 近所同士が仲よし(3)
- 3 みんなが笑顔で生活できる地域
- 4 楽しく生活できる地域
- 5 助け合える地域

◇6年生 女性

- 1 いつでも挨拶が交わし合える地域(2)
- 2 みんなが優しい地域(3)
- 3 いつでも声を掛けあえる地域(4)
- 4 ふれあい交流できる地域
- 5 ご近所が優しく、仲のいい地域(2)

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 6 誰とでも話し合える地域 | 6 みんなで支えあっていく地域 |
| 7 個人的なことを言わない地域 | 7 安心安全な地域(7) |
| 8 賑やかな地域 | 8 自然ないっぱいな地域 |
| 9 今、私が住んでいるような地域 | 9 みんなと楽しく暮らせる地域 |
| 10 友だちがたくさんいて、楽しい地域 | 10 みんなが仲良く暮らせる地域 |
| 11 安心安全な地域(4) | 11 友だちがたくさんいる地域 |
| 12 自然を大切にする地域 | 12 お互いに知り合える地域 |
| | 13 地域が力を合わせて楽しい行事のある地域 |
| | 14 今住んでいる地域 |

【子どもたちが望むホッとする楽しい地域に関する考察】

1. 学年・男女別から、共通して、望まれる「ホッとする地域」は、もちろん「犯罪の無い、交通事の無い地域・・・安心安全な地域」は、誰もが望むところではあるが、今回の調査回答から、子どもたちの声として、地域住民同士が心通いあえる地域を表現した意見が大半を占めている。人間が求める環境に「人的環境」があげられる。語れる環境、コミュニケーション力が深まり、身近な関係をもつことを子どもたちも強く望んでいる回答である。
「自然的環境」も意見としてあげられている。
2. 「今、住んでいる地域」とあげた子どもの意見が各学年に見られた。
大人社会が世代を超えた地域交流を積極的に心掛けて、子どもたちも安心して暮らせる思いが伝わってくる。
3. 「ご近所」「笑顔」「楽しい」という言葉もあげられている。
4. 「個人的な干渉の無い地域」を望む声もある。
5. こうした、子どもたちが望んでいる「ホッとする地域」の意見を具体的に地域づくりに向けて取組むために、大人社会はいかに努力していくか、明日を担う子どもたちを育む、私たちの地域づくりはいかにあるべきかを、生活圏域の身近な地域環境の中で、今からでも心掛け、改善できる内容が数多く潜んでいるようにも伺える。
6. 「あいさつ」「笑顔」「優しさ」は、今からでも実践出来る地域づくりの第一歩でもあると感じる。

「256名の子どもから聞きました ホッとする地域ですか」

調査結果から、大人社会に訴えていることは何か

今回実施した、「256名の子どもから聞きました ホッとする地域ですか」の調査は、主題事業である『子どもを育む福祉コミュニティの再構築と地域ぐるみの支えあいの仕組みづくり』に対して、子ども自身(小学校高学年256名)から回答していただいた。この尊い意見を、これからの地域づくりに活かす目的で取り組んだ。

調査は、大きく「基本属性の関すること」「子どもの生活状況に関すること」「子どもの家庭・家族に関すること」「子どもの地域社会に関すること」「自由提言」の5つの項目をもとに実施し、回答結果をもとに各考察をした。

ここでは、これまでの各考察所見をもとに、子どもを育む地域づくりに向けた子どもから大人社会

に呼び掛け、訴えていることを提言としてここにまとめた。

1. 大人社会は、子どもの地域環境を単に整備するだけにとどまらず、地域ぐるみの子どもたちの居場所として、有効に地域資源が活用できるように子どもたちに働きかける工夫。
そして、積極的に子ども同士が自由に交流しあうとともに、さらには、世代を超えた楽しい地域づくりにつなげる工夫
2. 子どもの成長と共に、特に、男性に対するより積極的な家族・家庭における子どもと大人社会とのコミュニケーション力の向上と場の提供努力
3. 子ども、特に男性や成長と共に「家事労働(手伝い)」の機会を改めて考え、積極的な子どもの「地域参加」につなげていく大人社会の工夫
4. 生活の中で、つねに子ども、特に男性に向き合う環境に配慮し、地域社会の仕組みを大人社会が伝授し、常に相談(受容)出来る環境維持に心掛ける。
5. 地域社会で支えあい暮らし合う仕組みを、大人社会が子ども社会に方向づける環境を心掛ける。
6. 子どもなりに、「他人のために何かしてあげたい」という意識があることを大人社会が真剣に受け止め(受容)、地域社会において、実践・体験の機会を提供できるように努力する。
7. いかにして、親自身が子どもに対して、家庭生活の中で、否定的生活環境(規制・制約)ではなく肯定的生活環境(促進・期待・奨励・称賛)の機会を多く持ち、維持しながら、その延線上において、子どもたちが積極的に、身近な地域社会の中で、地域参加活動することにより自信が芽生えてくるプロセスを重視する。
8. 子どもを育む原点は「家庭」にある、その楽しい家庭環境維持に努める。
特に、男性の存在をさらに受け入れる工夫。
9. 家族そろった食事等、家族内のコミュニケーションが維持され、しいては身近な地域社会の話題性に広げ、家庭と地域社会(大人社会)をつなげる環境保持に努める。
10. 大人社会(親)の近所づきあいが、子どもの生活状況に大きく影響している。
今日、現状として、子どもの成長と共に、身近なご近所とは疎遠となり、地域参加の機会を失う傾向にある。 日常の生活圏域において、家族ぐるみで地域をつなぐ大人の役割が発揮できるように努力する。
11. 大人社会が、身近な地域の魅力を伝え、地域行事の参加を子どもに積極的に呼び掛ける。
12. 子ども、特に男性には、日々の日常生活の中で、発達段階におけるごく身近な生活環境の中で、ご近所における大人社会からほめる積極的なコミュニケーションの配慮に心掛ける努力。
13. 子どもたちが望む地域行事の多くは「お祭り」である。
子どもたちの熱い願いは、大人社会に、地域の行事を維持した生み出す力量を問い質している。季節感、地域の自然・地域性や、伝統歴史のある行事を通じて、地域住民との交流を期待する行事等は、子供たちに対する単なる思いだけではなく、地域の良さをいつまでの抱き、子どもたちが大人社会に加わった時に、さらにこうした地域の絆を継承していく取組みが求められる。
また、自由な地域環境を求め、子どもたちの意見・アイデアを反映する地域づくりが問われる。
14. いかに、地縁組織と志縁組織の協働により実現できるかの工夫。
16. 子どもたちは、地域住民同士が心通いあえる地域を望んでいる。
「人的環境・語れる環境」を大人社会が創造する上で、コミュニケーション力を深め、身近な関係をもつ大人社会の努力
17. 「ご近所」「笑顔」「楽しい」「あいさつ」「笑顔」「優しさ」等の言葉が回答に多く含まれている。
今からでも、子どもを育む地域づくりの第一歩として取り組める提言でもある。

